

校名：福井大学教育学部附属中学校

所在地：〒 910-0015

電話番号：0776-22-6985

記載日：平成28年 5月 10日 記載者：野坂 訓由 記載者役職：主幹教諭

貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は、①義務教育学校として、義務教育としての中等普通教育を行うこと。②教育実習学校として、教員養成を目的とする大学学部附属した学校として学生のための実習を行うこと。③教育研究学校として、教育の理論および実際に関する研究および実証を行うとともに、その研究成果を発表し教育界の進展に寄与すること。以上3点を使命とし、昭和22年5月福井師範学校の附属中学校として開校した。昭和38年に法改正等に伴い独立開校。現在の名称は福井大学教育学部附属学校園附属中学校である。

「自主協同」を校訓とし、主体的・協働的に学び合い高め合う生徒の育成を目指し、大学と連携しながら、教科教育についての研究と実践や、学年を横断的に構成し協働的学びをすすめる「学年プロジェクト(総合的な学習の時間)」の取り組みなどを行っている。

研究した成果は、毎年6月上旬に県内外から多くの来校者を迎えた研究協議会、教育研究集会を開催し発信している。

貴校の卒業生の活躍状況について：

卒業生の中には、県内外の政財界の第一線で活躍する人材が多くいる。詳しくは同窓会名簿(非売品)により確認できる。

同窓会は、平成24年に独立開校50周年式典を開催し同窓会記念誌を作成した。

同会は毎年1回定期総会を開催し、附属中学校への支援等について協議を行っている。総会にあわせて各界で活躍する同窓生を講師として招き、中学生に対して同窓会講演会を実施している。

また同会会長は育友会会長とともに、学校評議員として本校教育活動に対して建設的意見をのべ、学校教育の充実に寄与している。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

本校で勤務した中堅教員の多くが、市教育委員会もしくは県教育委員会で、指導主事や主任などの職に就き、福井県の教育行政の中核を担っている。また若手教員は、それぞれの市町公立学校に戻り、研究主任や学年主任など学校運営に携わる校務に就いている。

このように本校で勤務する教員の多くは、福井県の教育界のリーダーを嘱望されており、また本校で習得した研究実践を県内に広めることが期待されている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

【探究するコミュニティの理念と実践】

本校がこれまで一貫して研究主題として掲げている「探究するコミュニティ」とは、生徒が協働して課題を解き明かしていく学びのあり方を研究・実践していくものである。このことは、今時の学習指導要領をめぐって議論が高まっているアクティブ・ラーニングの考え方そのものである。そのため県内外の多くの教育実践者が、各教科の授業の捉え方や単元の構想のしかたなどの本校の研究動向に対して関心を高めているところである。

また、「探究するコミュニティ」は生徒だけのテーマではなく、教員の協働研究体制においても同様のテーマとなっている。教科横断的な資質・能力を培う目的の「カリキュラムマネジメント」の重要性がクローズアップされているが、本校では教科の枠を解いて全教員が4つ部会を組織している。部会毎に授業公開や研究会を重ねながら、学校全体としての方向性を共有している。教員の力量形成だけでなく、メンタルヘルスにも一役買っている。特に中学校では、今後導入価値のある取組といえる。

同様に、「学ぶ意義」を感じさせることの重要性についても、本校では各教科の本質的な学びを「核となる学び」としてまとめ、常にこれを意識したカリキュラム構成をしている。言い換えれば、教科書に記載されている授業をするのではなく、生徒にとって学ぶ価値があるから、それに答えるべき授業をしているのである。

教科の「核となる学び」は、以下の3つのLと3つのSというカリキュラム構成原理によって具体化されている。（詳細は本校研究紀要第44号を参照していただきたい。）

Learning Community

＝協働でよりよいものを創造する「探究するコミュニティ」

Long Span＝3年間の学びを見通す学び

Look at the learning

＝学びを見とる協働研究の場のデザイン

Story＝子どもの学びのストーリー性を意識した必然性のある学び

Spiral＝スパイラルな学びの展開を重視した学び

School Culture＝学校文化の創造を視野に入れた学び

【他校への波及】

教育研究集会を開催するにあたり、その準備段階から、県内の小・中・高校の教員や県市町の指導主事を「指導助言者、研究協力者」として本校に招き、ともに研究動向について考察・提案する活動を行っている。「研究協力者」の多くは、県・市・町単位で組織されている自主研究団体（中学校教育研究会）の中核運営メンバーであり、研究会で討論される授業に対して指導・助言・提案を行う。この授業研究会を通じて、附属中学校を含めた県内各校に授業実践の論理や手法が広がり、また公立学校の取り組みや課題も本校にフィードバックされていく。このように附属中学校の授業実践の取り組みは、附属中学校内で閉じているのではなく、広く県内の公立学校に広がりを見せ議論の俎上にのっている。

【大学との連携】

研究を進めるにあたり、質の高い教科指導を進めたりICT機器の活用などより専門的で先進的な実践を展開したりするよう、常に大学の教員と本校の教員が連携をとっている。その他に、中学校1年生の校外学習の一環として、福井大学研究室訪問が昨年(平成27)度から実施され、普段では見ることのできない研究室の様子や研究者の話を聞いている。

また、福井大学教職大学院は学校拠点方式をとっており、教員養成やミドルリーダー養成に効果を発揮しているところであるが、本校は、教職大学院と学校との関わり方のモデルケースとなっている。すなわち、本校の教員が院生となり、個人の力量だけでなく、学校全体に対する教職大学院のサポート体制や、大学卒業後すぐに院生となる若手のインターンシップに対する指導等について、望ましい在り方を提案・実行し、他の拠点校に情報を供給している。

【ICT機器を活用した授業の様子】

平成27年度からは、2人に1台のiPadを活用。生徒が効果的にICT機器を使い実験の記録と分析を行っている。



【県内小中高校生と交流している様子】

福井大学が開催するラウンドテーブル(年2回)に参加する。県内の小中高校生同士が、探究した成果について意見交換を行っている。



【福井大学研究室訪問の様子】

福井大学医学部の研究室に出向き、研究者が取り組んでいる最先端の研究について、指導を受けている。



【教育研究集会の様子】

毎年1回、県内外から600名以上の教育関係者が集まり、本校の実践している研究について協議を進めている。



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

福井県は長年、本校と、市町が所管する公立中学校、2つの私立中学校があった（平成27年より県立中学校が開校された）。本校と私立中学校が県内一円から入学者の募集を行ってきている（本校定員120名のうち、約70名が附属小学校からの進学者であり、残り50名が、入学選考を経て入学してきている）。

本校の卒業生の多くが、県内にあり、進学校と呼ばれている県立高校に進学することから、本校に入学し学ぶということが、自己実現のための大事な過程と考えている保護者が多い。そのため、1時間以上をかけて通学してくる生徒もいる。

本校では、他の公立中学校の授業とは違い、自主・協同のもと、グループで話し合い考えを発表しあう授業や生徒活動が多く展開されており、結果として県教委が主催する「理数グランプリ」などのコンテストや発表会において、常に上位の入賞者が出ている。このことに県民が附属の教育システムの成果に期待するところであり、結果として多くの保護者が子息を入学させたいと希望することにつながっている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

全国各地に教員養成系大学は存在するが、福井県としてのこれまでの教育の実績は、福井県の風土と在地の人の教育に対する考え方が根底にあって、それに支えられる形で脈々と受け継がれてきたこと、そしてそれが師範学校としての成り立ちをもつ福井大学教育学部での学生の学びを通じて、福井の教員養成が連綿と行われてきたことに着目すべきである。平成28年度の福井県の新採用教員は200名あまりとなるが、福井大学教育学部で学んだ学生も多く、地域の風土をじかに体感してきた彼ら彼女らが中心となって、福井の教育をつぎにつなぐものと期待している。すべて国民はその能力に応じて等しく教育を受ける権利を有するものであるが、教育はそれぞれの地域の風土と密接にかかわるものであるから、それぞれの地域の風土実情に応じた教員養成が、地域ごとになされるのが望ましいと考える。

本校の教育実践は福井県内の自主研究組織に支えられながら、本県教育のパイロットとして機能している。教育が国や自治体の方針に従って行われるのは当然だが、その時々流行や動きに左右されることなく、常に10年20年先を見越して骨太の教育実践を重ねてきた。近年の「探究」と「コミュニケーション」という本校のキーワードも、今後ぶれることはない。前述の教育研究集会では、60名を超える研究協力者が中心となって、県中教研教科部会長、県や市町の指導主事、大学教員、県内外の教員、学部生、院生が一堂に会し研究協議する。このような機会は県内に他にない。本県教育の質の向上にむけて確たる実績を有しているのであり、福井の子供たちのために日々活躍する、多くの本県教職員の資質の向上に寄与している。